



川沿の道から少し入ったところにある、清潔感の漂う白と薄緑色の建物。それがサルー・フニン協同組合の病院です。ここは四〇年以上の間、私立フニン病院としてコルドバの人々の健康を支えてきました。ところが前回レポートした通り、二〇〇一年の経済危機の波は多くの工場や会社を廃業に追い込み、人々の生死に直接関わる病院をも容赦なく呑み込んだのです。今回は、そうした困難の中から立ち上がったサルー・フニン協同組合の歩みを紹介します。

サルー・フニン協同組合は、コルドバにおける会社回復運動の中心的存在です。会社回復運動とは、破産したり放棄されたりした会社を労働者が取り戻し、雇い主や支配人のいない自主管理に基づいた労働を目指す運動です。労働者たちは立ち退きの要求に対抗し、時には仕事場を占拠して操業を続け、裁判に訴え会社の占有を獲得して仕事を守ります。その何年にも渡る長い道のりの中で、新自由主義が切断していった人と人との結びつきが再び繋ぎ合わされていくのです。ここアルゼンチンでは、この試みが始まったのは八〇年代半ば頃と言われていますが、九〇年代を通して事例は多くなく、社会的な認知もあまりされていなかったようです。しかし特に経済危機以降、金属類、繊維、陶磁器などの工場を始め学校から病院に至るまで、様々な分野の会社が回復され始め、労働者同士の連帯、他の社会運動や地域住民との連帯が注目を集めるようになりました。現在回復された会社はアルゼンチン全体で二〇〇近くあり、合わせて約一万人の人々が働いていると言われています。



フニン病院を明け渡す計画は、すでに九八年から始まっていました。そして経済危機とちょうど時期の重なる二〇〇一年末、それまでの経営者が病院を手放したため、新たな経営者がやってきました。それに伴って、滞っていた給料が支払われることもなしに、大規模なリストラが断行されました。二〇〇二年五月時点で、十

一ヶ月分もの賃金が未払い状態でした。そこでまず四二人が仕事を守るためにストライキに入ることを決め、病院を占拠し協同組合を設立したのです。そして元経営者からの立ち退きを求める脅しが続く中、法的には「違法」という形で診療を再開し、仮の占有という不安定な条件の下で運営が続けられました。彼らはデモや集会で地域の人々に連帯を呼びかけ、時には学生の支持を得るため授業中に時間をもらって現状を説明し、また同じような状況にある会社や工場と連帯し合い、議会に法的な解決を求め...とその他できる限りのあらゆる手段を取ってきたといえます。そして五年目を迎える現在、専門職と一般職を合わせて約八〇人が働いており、月に約四五〇〇人もの患者が病院を訪れるそうです。

「健康は、お金との交換物として手に入れるものじゃない。それは全ての人々が持っている、ひとつの権利なんだと私たちは考えている。誰もが手の届くコストで、質の良い医療を受けられることを目指している。」と事務のエステバンさんは話してくれました。このことは、実際の診療費を見れば明らかです。一般の病院が三十~四十ペソ(一二〇〇~一六〇〇円)請求する診療を、ここでは十五ペソ(六百元)で提供しているのです。さらに貧しいコミュニティの食堂などに出かけて子どもたちを無償で診察するなど、フニン病院の果たす社会的役割が、地域の人々、とりわけ貧困層の人々の健康を支えているのです。



フニン病院は、徹底した平等主義に基づいています。病院と言えば、医師や看護師はもちろんのこと、事務や清掃に携わる人もいます。ところがここではその手に持つものがカルテであってもモップであっても、全員が全く同じ給料を受け取っているのです。休暇も皆等しく取ることができるそうです。「誰も信じようとはしないけどね。」とエステバンさんは笑って言いました。また全員の参加する集会は月に一度開かれており、物事を決定する際には各自同じ重みの一票を有します。「伝統的な協同組合では、決定権は三、四人の重役にある。投票では労働者が一票なのに彼らは二票。しかも集会は年に一回だ。そういう今までの協同組合との違いは、私たちのそれは社会運動から生まれたということだ。」「経営者が私たちを解雇したとき、道に放り出された私たちは何も持っていなかった。皆完全に平等だった。このときの平等を忘れちゃいけないんだ。」彼のこの言葉に、会社回復運動の原点が見えてくる気がしました。



さらに強調しておきたいのは、会社を回復するプロセスが、それぞれの潜在能力を引き出す可能性を持っているということです。「例えば受付にいる彼女は、十五年間も病院を掃除し続けていた。ところが今では受付事務の担当だ。この運動は人間的

な成長の場でもあるんだ。」と彼はその意義を語ってくれました。

そしてつい最近の五月初め、コルドバの立法議会において会社の占有に関する法律が変更され、サルー・フニン協同組合は二年間という期限付きで病院の占有を勝ち取りました。これは確かに大きな前進ではありますが、完全に協同組合の権利が認められたわけではありません。「私たちは闘い続ける。全ての人々に健康を届けるため、人々に連帯を呼びかける。」こうエステバンさんが言うように、彼らにとってこの二年は、新たな闘いの始まりなのです。

